介護職応援コンサート
介護職の底力発揮！

去る、９月 10 日（土）江戸川区船堀区民センターで「介護職応援コンサート」が開かれました。２月に実行委員会を結成して、月１回の会議を重ねて来た内容は参加者の心に届いた様です。

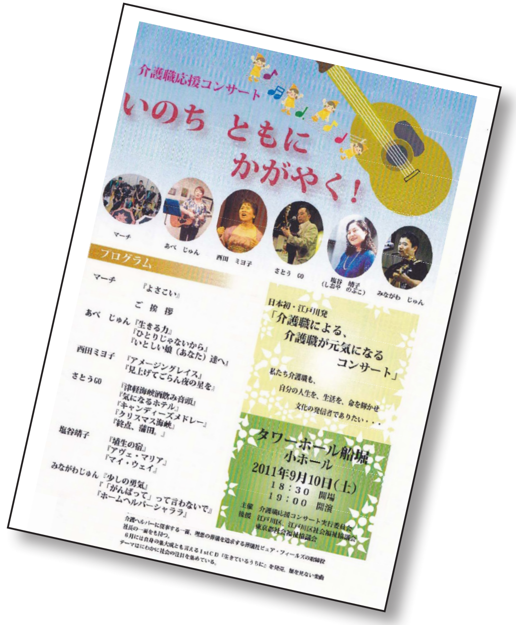
ここに、当日の様子と感想文の一部を紹介します。

満席 300 名の皆さ

3 時間休憩なしのスケジュールを和ませた「体操」の一こま

出演者一同。左端はおなじみの「じゅん・じゅんコンビ」

介護職応援コンサート
いのち ともにかがやく
2011.9.10　江戸川区タワーホール船堀で　実行委員一同


介護職応援コンサート

いのち ともに かがやく！

マーチ　あべ じゅん　西田 ミヨ子　さとう GO　塩谷 靖子（しおや のぶこ）　みながわ じゅん

プログラム

マーチ　『よさこい』

ご 挨 拶

あべ じゅん『生きる力』『ひとりじゃないから』『いとしい娘（あなた）達へ』

西田ミヨ子　『アメージンググレイス』『見上げてごらん夜の星を』

さとうGO　『津軽海峡酒飲み音頭』『気になるホテル』『キャンディーズメドレー』『クリスマス海峡』『終点、蒲田。』

塩谷靖子　『埴生の宿』『アヴェ・マリア』『マイ・ウェイ』

みながわじゅん『少しの勇気』『「がんばって」って言わないで』『ホームヘルパーシャララ』

日本初・江戸川発
「介護職による、介護職が元気になるコンサート」

私たち介護職も、自分の人生を、生活を、命を輝かせ文化の発信者でありたい・・・

タワーホール船堀 小ホール
2011年9月10日（土）
18：30　開場
19：00　開演

主催　介護職応援コンサート実行委員会
後援　江戸川区、江戸川区社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会

介護ヘルパーに従事する一面、理想の葬儀を追求する葬儀社ピュア・フィールズの取締役社長の一面をも持つ。6月には自身の集大成とも言える1stCD『生きているうちに』を発売。媚を見ない楽曲テーマはにわかに社会の注目を集めている。

・歌か～と思ってきました。でも、歌がこんなに人の心を温かくまた共感できることを実感しました。とても楽しい時間をありがとうございます。介護の中でちょっとの愛を、心をこめてお世話できるよう介護を楽しみます。

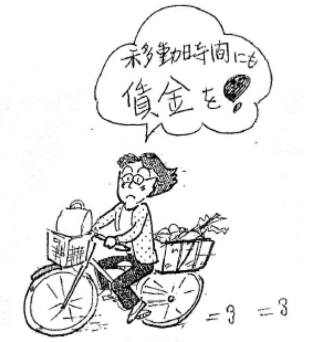
・私も介護をやっている一人として、新聞に目が行き、一人で行ってみようと思い出かけました。なかなか本音と建前、顔で笑って心で怒って「がまん、がまん」の連続の日もあり、この仕事ばかりはやってみなければ愚痴も言えない、言っても分からない世界です。感謝されたり、喜んでもらえたり、そんな時は幸せを感じます。今日はありがとうございました。

・とても美しい歌、心身共に癒されました。私もヘルパーの仕事を少しやりましたが、今日本が一番力をいれなくてはいけないところなのに、ヘルパーさんの仕事だけでは食べてゆけないなんてひどい事と思います。皆さんで一緒に声をあげ、ヘルパーさんの待遇改善をしましょう！

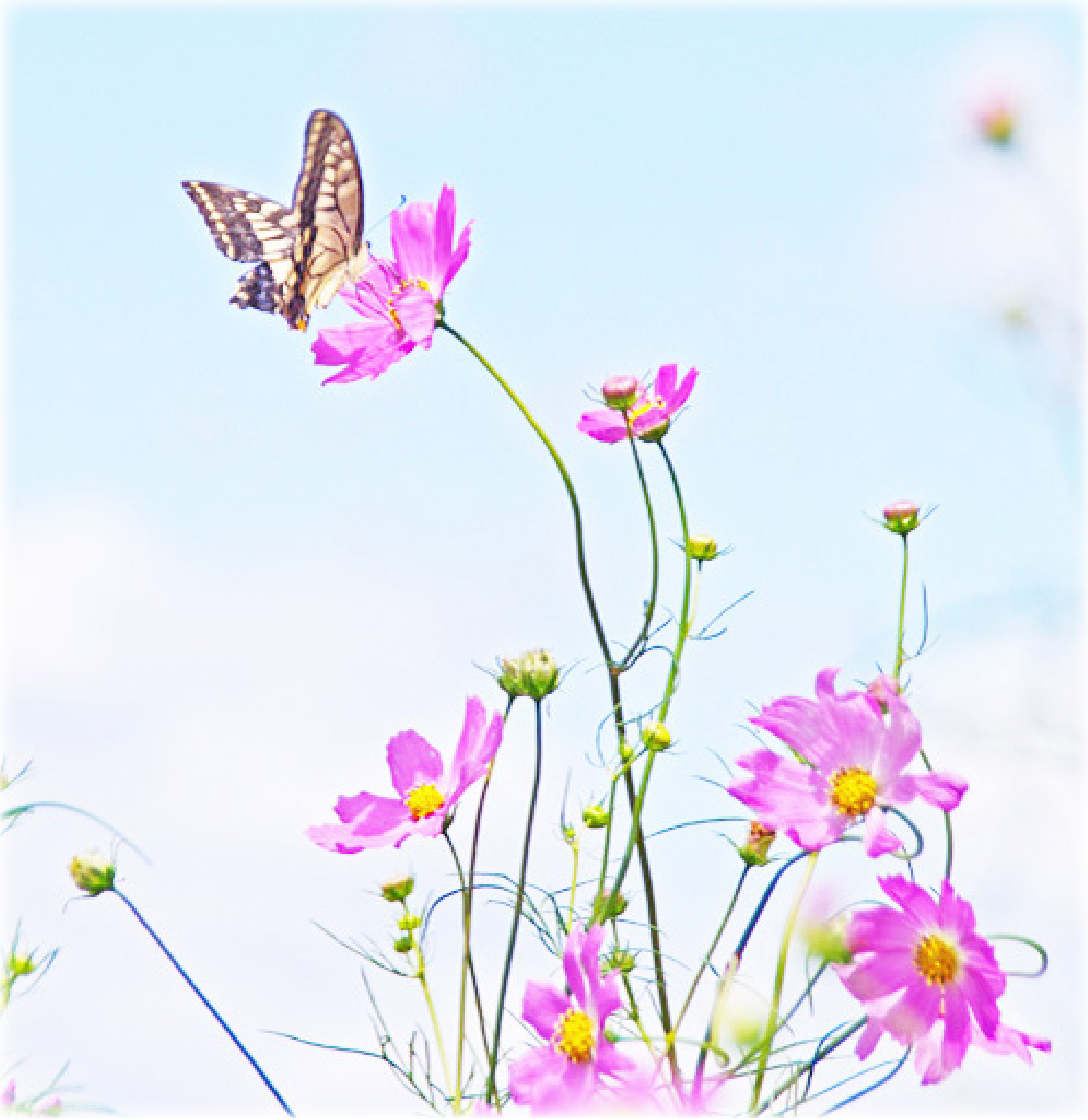
・私もとても共感でき感動しました。ヘルパーが誇りを持ってこれからも仕事が続けられるように、ときどきは交流しながら、人間の尊厳を大切にできる仕事ができればと思います。

共に介護を学びあい励まし合いネットワーク
〒142-0063　東京都品川区荏原 1-24-23 角田アパート 1F　Tel･Fax：03-3787-3117
PC アドレス：ruka@ga2.so-net.ne.jp　編集責任者：藤原るか

CLA だより　第 19 号　11/10/13
発行：共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク


移動時間にも
賃金を！
=3 =3

「CLA（クラ）」はラテン語で憂い、辛さ、気遣い、共感などと云った意味で、英語のキュアーやケアの語源です。


「花と蝶」 撮影：北出千万城

災害時における「介護職の使命」

東京北部地域ケアユニオン / ヘルパーネットワークあおぞら
「共同 NEWS」2011 年 7 月号より転載

「介護職が災害時、何ができるのか？」を考えて日々を送っている。それは、東京でも大地震がいつ起こってもおかしくない状況といわれているからでもあります。

今回は 6 月 26 日に参加した「第４回介護の学校」（青森・八戸大学）での小久保謙冶さんの「介護してのミッション」というテーマの報告を聞きながら考えたことを紹介します。

その日、小久保さんは津波の被害を間一髪（大津波警報の 10 分後に大津波）で逃げられたものの、（買物に出ていたときに地震発生）訪問していた家は全壊。利用者は無事にすぐに車で避難。外気は２～３度 C。周囲の状況は「地獄とはこういったものなのか」という。その中で「家族優先なのか？利用者優先なのか？」の問いが繰り返されたそうです。

彼は介護職だけでなく地域の消防団として行方不明者の捜索や遺体の処理を繰り返したそうです。

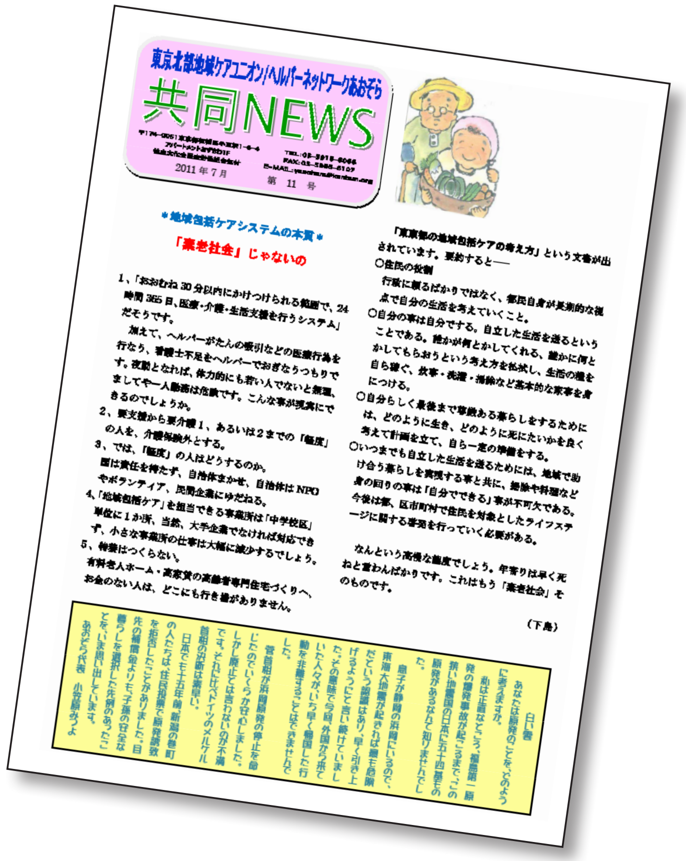
その後、「生きている人をどう助けるか？」という意識に切り替えながら、私設の「介護避難所」の運営に参加することになりました。公的避難所では受け入れられなかった要介護高齢者の状況が「死亡者」を増やしていたからでした。530 名を超える被災者のいる避難所では、「オムツ交換は３～４日なく、体位交換もされず亡くなってゆく人」「ヘルパーの訪問が３日なければ亡くなること」などがあり、こんなことこそ「孤独死」なんだ！という状況があちこちで起こっていたという報告には、まったく報道されていなかっただけに驚きました。介護職の手が求められていたのです。

公的避難所ではない「介護避難所」を運営する必要性、岩手弁では「手あましの人」の対応の必要性です。震災以前は失禁もしていなかった方々です。閉鎖施設を「介護避難所」として開設した当時は「水」「食料」が何もない中、一緒に泥水を飲み、腹を下し、一日一食一つのおにぎりを分け合って食べて「命」をつないだそうです。そういった中で「一緒に生きていこうね」の一言で失禁や不穏が止まったと、報告されました。

最後に、「いつも傍らにいること・一緒に生き・生活していくこと」に、介護の意味があるとわかったと報告を締められました。

被災しながら活動した当事者（介護職）の話を直接聞くことが、今後の介護を考える上でとても大切なことだとあらためて思い、今あちこちに紹介しています。

藤原　るか



東京北部地域ケアユニオン/ヘルパーネットワークあおぞら

共同NEWS

2011 年 7 月　第 11 号

＊地域包括ケアシステムの本質＊

「棄老社会」じゃないの

1、「おおむね 30 分以内にかけつけられる範囲で、24 時間 365 日、医療・介護・生活支援を行うシステム」だそうです。

加えて、ヘルパーがたんの吸引などの医療行為を行なう、看護士不足をヘルパーでおぎなうつもりです。夜勤となれば、体力的にも若い人でないと無理、ましてや一人勤務は危険です。こんな事が現実にできるのでしょうか。

2、要支援から要介護 1、あるいは 2 までの「軽度」の人を、介護保険外とする。

3、では、「軽度」の人はどうするのか。国は責任を持たず、自治体まかせ、自治体は NPO やボランティア、民間企業にゆだねる。

4、「地域包括ケア」を担当できる事業所は「中学校区」単位に 1 か所、当然、大手企業でなければ対応できず、小さな事業所の仕事は大幅に減少するでしょう。

5、特養はつくらない。

有料老人ホーム・高家賃の高齢者専門住宅づくりへ、お金のない人は、どこにも行き場がありません。

「東京都の地域包括ケアの考え方」という文書が出されています。要約すると――

○住民の役割

行政に頼るばかりではなく、都民自身が長期的な視点で自分の生活を考えていくこと。

○自分の事は自分でする。自立した生活を送るということである。誰かが何とかしてくれる、誰かに何とかしてもらおうという考え方を払拭し、生活の糧を自ら稼ぐ、炊事・洗濯・掃除など基本的な家事を身につける。

○自分らしく最後まで尊厳ある暮らしをするためには、どのように生き、どのように死にたいかを良く考えて計画を立て、自ら一定の準備をする。

○いつまでも自立した生活を送るためには、地域で助け合う暮らしを実現する事と共に、掃除や料理など身の回りの事は「自分でできる」事が不可欠である。今後は都、区市町村で住民を対象としたライフステージに関する啓発を行っていく必要がある。

なんという高慢な態度でしょう。年寄りは早く死ねと言わんばかりです。これはもう「棄老社会」そのものです。

（下島）

白い雲

あなたは原発のことを、どのように考えますか。

私は正直なところ、福島第一原発の爆発事故が起こるまで、「この狭い地震国の日本に五十四基もの原発があるなんて知りませんでした。

息子が静岡の浜岡にいるので、東海大地震が起きれば最も危険だという説明はあり、早く引き上げるようにと言い続けていました。その意味で今回、外国から来ていた人々が、いち早く帰国した行動を非難することはできませんでした。

菅首相が浜岡原発の停止を命じたのでいくらか安心しました。しかし廃止とは言わないのが不満です。それに比べドイツのメルケル首相の決断は素早い。

日本でも十五年前、新潟の巻町の人たちは、住民投票で原発誘致を拒否したことがありました。目先の補償金よりも、子孫の安全な暮らしを選択した先例のあったことを、いま思い出しています。

あおぞら代表　小笠原みつよ

世界のヘルパーさんと出会う旅番外編

ヨーロッパのヘルパーさんと出会う旅

日程：2011 年 12 月 11 日（日）～16 日（金）

次回は「台湾」のヘルパーさんと交流しようという予定で企画していましたが、今年は震災もあり１年間延期となり 2013 年度の１月に実施予定を延期させて頂いています。
楽しみにされていた方は、しばらくお待ち下さい。

この度は、某旅行会社の格安「クリスマス・マーケット・ツアー (3 カ国)」が企画され、現地ヘルパーさんたちとの懇談も加えた形ができるプランも組めるということで急遽申し込みをしました（現在申し込みは３名です）。ツアーはベルギー滞在 3 日連続同一ホテルという内容。

ドイツ・オランダ・フランスの３カ国を回る予定です。

参加費：約 14 万円（航空運賃・宿）

※ 他に行動費 (ツアーから外れるための交通費・通訳料) と食事代が別途かかります。

問い合わせ先：090-5998-2745(事務局・藤原)

日程等合う方がありましたら、ご一報下さい。

Florence
CARERS UK
the voice of carers

11 月 12 日 (土)

ヘルパーの、ヘルパーによる。ヘルパーのためのおしゃべり企画
テーマ：「介護労働環境と介護の本質」(仮)

介護保険 10 年。介護労働はどのように変質してきているのか？介護の本質を研究されている石田一紀先生（京都女子大学教授）と介護保険の報道に取り組まれている NHK 解説員の後藤千恵さん（予定）を囲んでこれからの介護を考えあいませんか？

会場：南部労政会館　第 1 会議室　　時間：15:00 ～ 18:00
参加費：1,000 円 (資料・会場費代)　　定員：先着 30 名
※終了後「懇親会を予定しています」

11 月 13 日 (日)

全国在宅ケア研究交流集会

会場：東洋大学白山校舎 1 号棟
参加費：1 日 4,000 円 (学生 1,000 円)
午前：「想定される 15 分での巡回ケアの実際」(ヘルパー座)
シンポジウム「最後まで、その人らしく生きる在宅ケアをめざして」
午後：分科会 (1 ～ 6) と特別講座 (講師：井上英夫先生)

在宅でよくある「現金」のやり取りで冤罪事件が今、最高裁で闘われています。ご支援下さい！

詳しくは 4 ページをご覧ください。

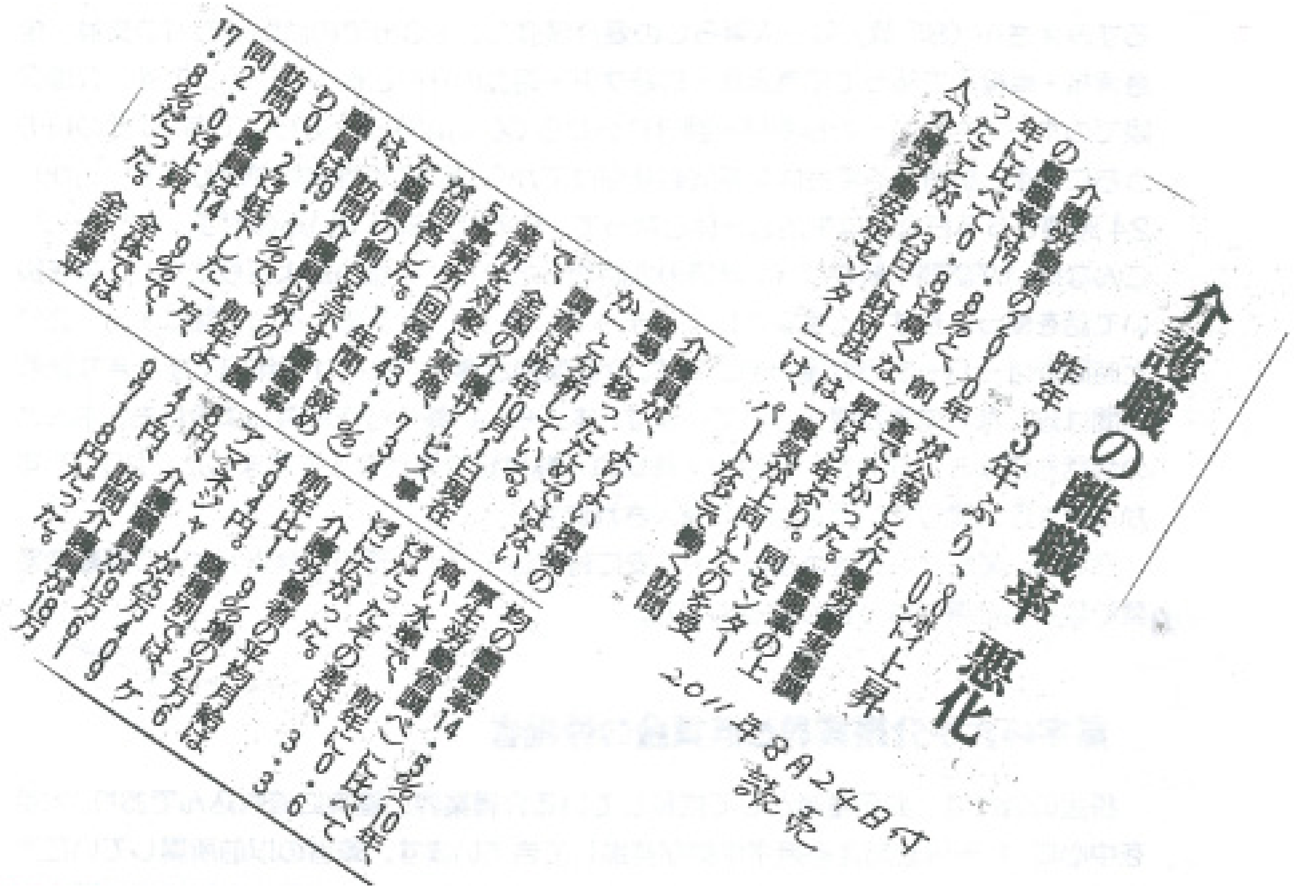
市民福祉情報（http://haskap.net/）

☆ハスカップセミナー 2011-No.04
「『介護事故』ってなに？」
日時：10 月 18 日（火）18 時 30 分～ 20 時 30 分
会場：新宿文化センター第 1 会議室
ゲスト：田中 元さん（フリーライター）
加費：1500 円

☆介護・福祉の応援サイト「けあサポ」のブログ「どうなる？介護保険」に 10 月 6 日、「『定期巡回・随時対応サービス』の展望と課題」、10 月 12 日、「介護報酬改定に関する 3 つの会議」を更新しました。

離職進むヘルパー

根本的な解決「労働環境」の安定に打つ手なし
「無策な在宅現場で働く ホームヘルパー（訪問介護員）」



介護職の離職率　悪化

昨年　3年ぶり、0.8ポイント上昇

2011年8月24日付
読売

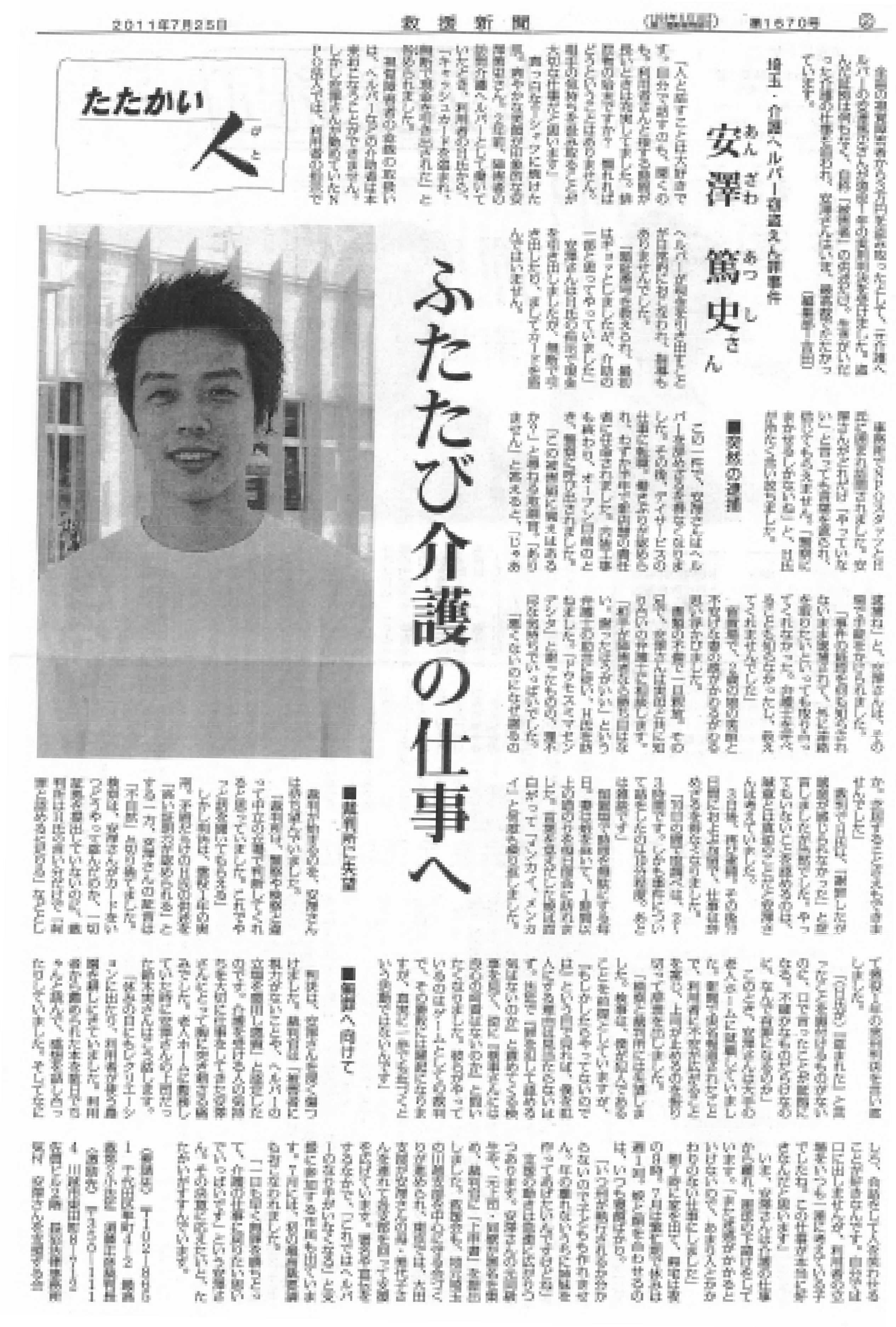
現在、380 万人といわれている資格保有者（ホームヘルパー 2 級）。更に養成は続いており、大手企業にその莫大な補助金が投下されている。よく見かける某大手ヘルパー養成学校はそれぞれに TV の CM（1 回あたり 1 億円）を打てるほどの資金力になっている。

しかし、現場で働いている人数は常勤換算で 16 万 8 千人（平成 20 年度調査)、ゴールドプラン 10 万人・新ゴールドプランで 20 万人・新ゴールドプラン 21 で 38 万人と介護保険導入前に計画された目標の人数にも満たない現状で介護保険 10 年を経過している。

定着の悪さは「労働環境」の未整備と現場を無視した制度矛盾にあることは明らかである。特に 2006 年の介護保険改正で「短時間」を導入したり、規制を強化し「同居家族への生活援助」が自費となった頃から、離職者は年々増加し平成 19 年に 19 万 2 千人（常勤換算）まで増えた所から 3 万 5 千人近くも離職するという結果が、2006 年の制度改正で短時間となって以降、離職が続いているということが、今回のデーターでも裏づけられた訳である。

超のつく「高齢社会日本」にふさわしい介護体制が早急に求められている。

（編集部）



2011年7月25日　救援新聞　第1670号

たたかい人（びと）

埼玉・介護ヘルパー窃盗えん罪事件

安澤（あんざわ）篤史（あつし）さん

ふたたび介護の仕事へ

■突然の逮捕

■裁判所に失望

■復帰へ向けて

「介護保険」改正に物申そう！

いろいろな取り組みを準備しています。
みなさんも出来るところから「だまっていられない！」と意思表示をしてみませんか？

①

ステッカー・署名等で「生活援助」等についてのアピールや行動を企画していきたいと思っています。早速 11 月 12 日（土）第 1 回企画会議を予定します。黙っていてはヘルパーがすたるという方、是非お集まり下さい。
会場：南部労政会館　第 1 会議室　14：00 〜

② 学習会などで「学び」を深めてゆきませんか？

10 月 16 日 (日)

第 9 回「介護に働く仲間のつどい」

会場：平和と労働会館 (御茶ノ水駅徒歩 7 分)
内容
午前：講演会
「誰でもいつからでもやり直せる」
午後：分科会
参加費：500 円

10 月 30 日 (日)

第 3 回 介護フェスティバル
〜コンサートと講演のつどい〜

会場 ：十文字女子大学 9 号館
(新座駅徒歩 10 分)
時間：13:00 〜 16:00
参加費：無料
問い合わせ先：048-489-1274(大田宛)

10 月 23 日 (金)

第 31 回 認知症ワーキング

会場 東京ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ・ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽ
(飯田橋駅徒歩 2 分)
テーマ①
「巡回型訪問介護・看護 (15 分のケア) で認知症をもたれた方はどうなるのか ?」
テーマ②「相談事例の検討」
参加申し込み
TEL：090-5998-2745(藤原宛)
FAX：3787-3117(藤原宛)

11 月 11 日 (金)

第 1 回 介護コンサート
「がんばって」って言わない日

会場 ：スタジオ・ヴィルトゥオージ
(新大久保駅徒歩 5 分)
時間：18:15 開場 /18:45 スタート
参加費：2,000 円
挨拶：柴田範子さん (東洋大学) 他

次のページにも取り組みを掲載しています。